文化庁月報

No.418
2003年 7 月号

CONTENTS

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談 第16回 ゲスト 堀田 力さん●弁護士・さわやか福祉財団理事長
ボランティアは心意気 ……4
長官コラム 文化庁の抜穴 ……9

特集 文化と科学技術の融合～文化創造最前線～
巻頭言 科学技術を用いた文化施策の展開について ……政策課・10
事例紹介 生産・産業遺跡における科学調査の在り方 世界遺産を目指す「石見銀山遺跡」の事例から …村上 隆・12
メディアアートの進展について ……杉本昌裕・14
バーチャル文化財体験 ……加茂竜一・16
「TNM Image Archives」について ……高見沢明雄・18
建造物調査における3Dレーザー測量の応用 ……高村功一・20

連載
わがまちの文化振興条例④
春日井市文化振興基本条例 ……22
ことばの探検⑯
平安時代の流行語 ……山口仲美・24
著作権の保護とその例外④ ……25
いきいきミュージアム 美術館・博物館事業レポート⑱
萬鉄五郎記念美術館(岩手県) ……26
全国発掘調査ホット情報④
教科書で見た写真 前田砲台を掘る(山口県) ……27
子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区
堀内地区(山口県萩市) ……28
文化体験プログラム支援事業④
栃木県足利市 ……29
日本の伝統美と技を守る人々 選定保存技術保持者編28
石塚芳春(竹釘制作) ……30
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法―文化財鑑賞の手引き―④
陶磁器の釉薬とその技法 ……31
探訪 日本の世界遺産④
白神山地世界遺産地域 ……32

文化庁ニュース
平成一四年度「国語に関する世論調査」 ……33
文化財の新指定(美術工芸品関係－1) ……35

イベント案内
東京国立博物館
アレクサンドロス大王と東西文明の交流展 ……41
京都国立博物館
特別展覧会 アート オブ スター・ウォーズ展 ……42
東京国立近代美術館
三代藍堂 宮田宏平展 金属造形の先駆け ……43
国立国際美術館
近作展29 ヤノベケンジ―MEGALOMANIA― ……44

新国立劇場スポットライト ……45
8月の国立劇場 ……46
芸術文化振興基金ニュース ……47

今月の表紙
平成14年度文化庁メディア芸術祭
アニメーション部門優秀賞
『頭山』
©Koji Yamamura／Yamamura Animation,Inc.

題字デザイン 桑山弥三郎

文化人の本音

河合隼雄文化庁長官対談 第一六回●ゲスト

ボランティアは心意気

堀田 力さん●弁護士・さわやか福祉財団理事長

撮影／島峰 譲

成長の一〇年

河合 文化ボランティアといい始めて、非常に反響があってさかんになっていますので、今日はボランティアの先輩の話を聞かせてください。

堀田 先輩とは恐縮ですが、文化ボランティアもすばらしく伸びています。経済とか、政治の分野では「失われた一〇年」と言われますが、ボランティアは輝かしい「成長の一〇年」ですね。

河合 これだけ出てくるとは思わなかったです。

堀田 国民の求めるところが「モノ」だけでなくて、「心の豊かさ」といった多様な、人間らしい豊かさになってきている。そういうレベルまで経済もきたということですね。でも心というのは、企業や行政はあまり得意じゃない。

河合 そういうことに気がつくのと、先生が始められるのといっしょだったですかね。

堀田 そうですね。私が始めたのはもう一二年前になりますか。心といっても「ひとり暮らしのおばあちゃんがかわいそう」と、ごく身近な分野から広がりだしたところです。あのころと比べると、この一〇年で大きな変化があったような気がします。

ほった・つとむ　弁護士・さわやか福祉財団理事長。京都府出身。京都大学法学部卒業後、昭和36年に検事となり、汚職や選挙違反を摘発する。法務省刑事局付検事、駐米大使館一等書記官を経て、昭和51年から東京地検特捜部検事。ロッキード事件を担当して論告求刑を行い、“カミソリ堀田”として知られた。その後、法務省官房人事課長、最高検察庁検事、法務大臣官房長を歴任。平成3年、福祉活動に従事するために退官。「さわやか福祉財団」を設立し、ボランティア組織設立の啓発と方法論の提供に務める。

河合 初めから予想しておられましたか。

堀田 一つは国民のニーズが、物欲的なものから、もっと自己実現みたいなものに高まってきているということで、必然的にボランティア活動を招きますし、もう一つは、自分たちが参加して社会をつくろうという意欲が出てきた。

河合 自分が主体として動けると。文化ボランティアといってますが、福祉も、文化も、そんな差がないのです。要するに心のことなんです。ただ、それを文化ボランティアという言い方にしないと、何かみんな狭い考え方でボランティアをされるから。

堀田 長官のおっしゃるとおりで、福祉の分野ではおしめを換えたりもしますけれども、そっちが主体というよりその間に話をし、相手が喜んでくれることに意義がある。やっぱりこれは文化の面なんですよね。

河合 すごい総合性がありますね。それもみんなわかってきたのとちがいますか。

堀田 自分が高められる、自分が成長するという喜びを、する側も感じる。これがボランティアという仕組みのよいところですよね。

ボランティアの世界へ

河合 以前は、検事としてがんばっておられたので、素人目にはボランティアへの取組に驚くのですが、何かきっかけがあったんですか。

堀田 若いころは、定年で辞めたらボランティアしようと思っていたんです。三〇代後半ですが、私は三年半外務省に出向して、ワシントンの日本国大使館におりまして、そのときに家族を連れて行ったんです。子どもたちはまだ学校に行ってなかったんですが、ボランティアの世話になり、それから現地の子どもたちに受け入れてもらいました。ボランティアの世界というのはまったく差別がないですね。英語もできない、人種も違う。やっぱりいじめられることを一番怖がったんですが、まったくそれがなくて、ボ

文化人の本音 河合隼雄文化庁長官対談

ランティア活動がそういう土壌をつくりだしてるんだということがわかりました。日本も経済だけじゃなくて、こういうふうにしていかないと、いい国にはならないと思った。それがきっかけなんです。

河合　阪神淡路の大震災のときに、心のケアの問題があるから、電話相談をまずしたんです。そしたら回線が止まるぐらい相談がきたので、みんな出かけていきました。あの大震災で、日本人がすごいボランティアをするとわかったんです。

堀田　私も何度も、リュックサックに栄養剤をいっぱい背負い、仮設住宅に栄養剤を配って歩いたりしていたんですが、びっくりしたのはすごく若い人たちがたくさん来ていた。「何でボランティアする気になった」と聞いたら、「いやあ、テレビ見てたら、自然に足がこっち向いてきました」という返事がありました。

河合　それが本物のボランティアです。

文化と経済

堀田　京都橘女子大学の池上惇先生は、文化と経済は別みたいな感じがするけれど、文化自体が一つの基盤で、ここがしっかりできないと人間の生活がほんとに豊かにならないとおっしゃいます。

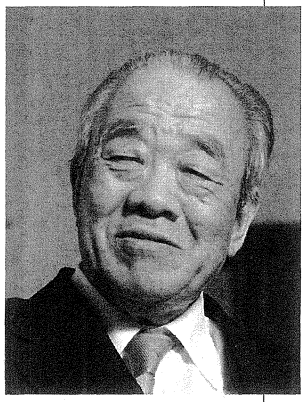
文化というのは、人間が動物と離れて、みずから高まっていくための基本的なものです。高まると感動が大きい。ただ、高めるためには、お金かけたって高まらないので、自分のいろんな努力が要るんです。

河合　小渕総理の「二一世紀日本の構想」懇談会」を私がやってましたときに、「個人を確立する」「新しい公をつくる」ということを言ったんです。つまり、行政が上からやる公じゃなくて、ボランティアが公をつくっていくんですね。私は、募金もボランティアだと言ってるんです。

堀田　お金というのは、自分がエネルギーを出して入手したものですから、そのエネルギーを出した結果を寄附すれば、これはもうまったく対等のボランティアです。

河合　そのときにある種の取組がいるでしょう。

堀田　うちは財務班というのがもっぱら企業を回って、お金を集めています。七名いて、これが全部企業のOB。元銀行の支店長が、ボランティアで一生懸命お金を集めてくる。ときには総会屋みたいに扱われて、「涙がこぼれないように上を見ながら帰ってきた」なんて言われると（笑）、私もせつないんです。「金集めをボランティアでやっていただき、ほんとありがたいけども、ばかばかしいと思いませんか」と言ったら、「ボランティアでないとこういうことはやれません」と。



リーダーの養成

河合　リーダーの養成とか、研修というようなことも考えておられるんですか。

堀田　リーダーの養成も絶えずやっています。企業経営、あるいは官庁の組織論とボランティアの組織論は根本から違うことをまずしっかり押さえる必要があります。企業、官庁は効率ですよね。ボランティアは心意気がなきゃいかん。心意気を引き出すためには、彼らの自発性、思いを存分に引き出すようにしないと嫌になる。役割を割り振ってマニュアルを押しつけるのはやっちゃいけない。まずみんなの思いを徹底的に聞いて形をつくっていく。これにはすごく時間がかかりますが、ここをきちんととおらないとうまくいかない、まずその初歩のところから教える。

また、人集めのところで、心意気ですから、目的をはっきりさせて、心の底から賛同する人をまず集めないと、うまくいきません。

河合　一人ひとりの意見を出していきながら、だんだんまとめていくわけでしょう。

堀田　時間がかかるかわりに、これがまとまると非常に強いです。みんな個性、思いがありますから、しょっちゅううちの財団の中でもけんかする。どんなにけんかしたって、うちは六五人職員がいるんですけれども、仕事がおもしろくないといってやめたのは一人もいないですよ。

河合　けんかするところがおもしろいですね。

堀田　気が済むまでやらせているんです。

社会資源を生かす

河合　ボランティアをやりたいという人で、嫌な人もいるでしょう。

堀田　私が初めたころ、いきなり「私は何という肩書きをいただけるんですか」と（笑）。肩書きにこだわっているうちは、あまり好かれていませんでしたね。

河合　伝統のようなものができたらもう大丈夫ですね。そうなるまでが大変だと思います。

堀田　でも、そういう教えるのが好きな方のお気持ちを生かせるのも文化ボランティアですね。

河合　教え好きになり過ぎると困るんです。習う方はしんどくなってきますから（笑）。

堀田　福祉の分野では、ボランティアが施設に入っている方の相談を聞いて、施設長や行政に待遇改善などを申し入れたりしていますが、そういうのはサラリーマンや元教員の方なんかが得意です。もっと入っていただければ、日本の文化レベルがどんどん上がるし、社会資源がすごく生かされると思うんです。

河合　まさに誰でも来られるわけですか、入りたい人が来られるわけですか。

堀田　私どもが苦労してるのは、ボランティアしたいんだけど、何していいかわからないと。「あなたが学生時代好きだったことを、子どもたちに教えたりすればいいんじゃないですか」と、ヒントを差し上げると、やりだされますね。NPOでフリースクールみたいなものが少しずつ出てきましたが、もっと地域に、寺子屋教室を作ってもらったりとか。できれば得意科目は教えないでくれと私はお願いしています。授業のわからない子の気持ちがわかるから、いい先生になっていただける。学校についていけない子に、もう一度元気と自信を取り戻させてくれれば、子どもの社会、未来が変わってく

ると思うんです。

河合　「おまえもできないか。おれも苦労したんだ」てなもんで、人間と人間が触れ合います。

堀田　何で勉強やらなきゃいかんかというのが、わかってくると思うんです。そういう仕組みのほうでもっとボランティアが欲しいですね。

金を使わずに心を使え

河合　子どもに接するときに、どういうふうに接した方がいいかとか、こういう点を考えようとか、そういう研修はされますか。

堀田　もう基本の原理だけですけど、「仕切っちゃいかん。教えるんじゃない、いっしょに考えるんだ」と。

河合　子どもが実際にやりだすと、わかるんですよ、教えんでもええことは。

堀田　遠くで見守っていればいい。どうしても危険なときに出ていくだけです。「自分の子ばっかり見ちゃいかん。人の子も見なさい」と（笑）。

河合　それはいいアイデアですね。結局、仕切らない、無理に教えない。それでこっちが落ち着いて見ていられるようになると、子どもが動き出しますからね。

堀田　『文化ボランティア通信』の初めの方に、山形方式というのを取り上げていただいていました。学年、学校関係なしに、地域で好きなことをやるという、あれを全国に広めたいと思ってるんです。車いすを貸して、「あなたたちの住んでいる町内をみんなで回って、車いすで行きにくいところを見つけなさい」と言いましたら、いっぱい見つけてくるんです。「あそこのコンビニは、ドアが開いたと思ったらすぐ閉まる」とか、「あの個人病院はお年寄りがたくさん来るのに、階段だけでスロープがない」とか、それを大きな地図にして、コンビニだのみんなの集まるところに張り出す。そうすると、病院の先生が自費でスロープをつける、コンビニが改良する。自分たちが言って、町はバリアフリーになる。

河合　すごい工夫、頭、心を使ってる。ぼくはよく言うんです。「金を使わんと、心使ってください」と。ところが、みんなこのごろ心を使うかわりに、金を使う方ばかり考える。それが今の社会は逆に回って、みんないがみ合ったりしてるわけですね。先生がやっておられるようなことをやると、みんな楽しくなります。

堀田　「金を使わず心を使え」というのは、文化庁にピッタリの標語で（笑）。

仕切らない、教えない

河合　仕切らない、教えないというのは、高齢者に対しても同じですね。

堀田　施設の方は、ボランティアというと、ただの手伝い手が来たと言う人もいますが、生かす能力をたくさんもっておられる高齢者から、話を引き出すと生き生きと表情が出てくる。それが施設ボランティアの仕事なんです。

河合　今お話ししてくださってるようなことは記録したり発表したりしておられるんですか。

堀田　いろいろそういう経験を集めたり、講演でも話します。現に痴呆の方をどう扱うかというのは、ケアが確立してないようですね。痴呆の方だって尊厳があるんです。それを見つけてそれに沿えば必ず良くなる。やっぱり文化は本人の人間性です。

河合　さっき「心意気」と言われたけど、「心意気」なんていう言葉がこのごろあまり使われないんですよね。それがもうちょっと一般にわかってもらうとありがたいと思うんですけどね。しかし、すばらしいことをおやりになっていて、それがもっと広がるといいですね。先生のところと、似たような組織ができてきていますか。

堀田　私どもの団体は、日本語で「中間支援組織」なんて言われておりますが、中間というのはたぶん行政とボランティアの間の中間で、それを組織する組織という、アメリカ流の発想だと思います。専門にやっている団体が全国で二〇〇を超えていると思います。ボランティアやNPOを立ち上げる研修をやったり、立ち上がったもののリード役をやったり、情報交換をやったりしております。

河合　我々の文化ボランティアの方は、『文化ボランティア通信』を読んでもらって、「やろうか」とか、「やってることを書こうか」とか、広めていこうとしています。活字になると励みになりますので。

堀田　ずっと残りますから、参考になりますね。

河合　今日のお話もずいぶん参考になりました。どうもありがとうございました。

（了）

●8月号予告

◆長官対談◆
【文化人の本音】河合隼雄文化庁長官対談
森下洋子　バレリーナ
【長官コラム文化庁の抜穴】

◆特集◆
文化芸術教育の推進について
【提言】
文化芸術教育の推進に向けた取組
【実践事例等】
学校教育における演劇等教育
文化ボランティアにおける教育支援
文化少年団
公立文化会館における教育普及活動
伝統芸能などのふれあい体験について
ほか

◆連載◆
【わがまちの文化振興条例】
東京都目黒区
【著作権の保護とその例外】
【いきいきミュージアム～美術館・博物館事業レポート～】
地底の森ミュージアム
【全国発掘調査ホット情報】
下寺尾西方A遺跡（千葉県）
【子どもたちから見た伝統的建造物群保存地区】
日向市
【外来語の現状とその解決のために】
……甲斐睦朗国立国語研究所所長
【文化体験プログラム支援事業】
豊見城市文化体験プログラム支援事業
【日本の伝統美と技を守る人々】
表具用内刷毛製作・藤井源治郎
【探訪　日本の世界遺産】
屋久島（鹿児島県）
【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
写本のみかた

◆文化庁ニュース◆
文化財の新指定（美術工芸品関係―2）

編集後記

今月号は、「文化と科学技術の融合～文化創造最前線～」という特集をお届けいたしました。一見あまりかかわりのないように思える、文化と科学技術。感性と理論というイメージで対比されがちですが、どちらも基本的には個人の発想に原点があるという共通点もあります。

急速に発達する科学技術については、地球環境や資源・エネルギーなどの問題も生じていますが、こうした問題に対して、人間尊重の価値観を踏まえ文化の側からの積極的な働きかけが求められています。また、科学技術の発達は、コンピュータ・グラフィックスをはじめとした新たな表現形態を生み出すなど、文化にも大きな影響を与えています。

どちらも私たちが真に豊かな暮らしを送るうえで欠かせないものです。両者の振興を通じて、未来が明るいものとなるよう願っています。（M）

お詫びと訂正

本誌平成一五年六月号掲載の「全国発掘調査ホット情報」の「壇の越遺跡埋蔵文化財発掘調査の成果と展望」の文章の最後に（加美町教育委員会生涯学習課　斉藤　篤）の名前が入っておりませんでした。

読者の皆さま、関係諸氏にお詫び申し上げますとともに訂正させていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
http://www.bunka.go.jp

文化庁月報 7月号（通巻418）

平成15年7月25日印刷・発行

編集――文化庁
〒100-8959　東京都千代田区霞が関3-2-2
発行――株式会社 ぎょうせい
本社　〒104-0061　東京都中央区銀座7-4-12
本部　〒167-8088　東京都杉並区荻窪4-30-16
電話　編集　03（3571）2126
販売　03（5349）6666
URL：http://www.gyosei.co.jp
印刷所―ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円　本体514円　送料76円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
（株）ぎょうせい営業部広告課
電話03（5349）6657（ダイヤルイン）

©2003 Printed in Japan

ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。